

## 2023年度

科目名称	地域環境計画論
授業コード	AC261
英語名称	Field & Community Planning
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	古瀬 浩史 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>地域環境計画を概説し、環境問題や関連する法規の理解、環境計画に必要な生態学の概念等について学ぶ。後半には「持続可能性」および「動物（自然）と人が共生できる社会の実現」の観点から、NPO活動や社会起業による地域計画の事例、地域おこしのコンセプトを扱う。それらにより実際の取り組みを動機付ける。</p> <p>主に、市民の参加によって実現するボトムアップの環境計画を想定し、他の専門科目で学んだ動物学や景観デザイン等の知識の応用的な活用、統合を目指す。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>講義は、環境保全NGOでの勤務経験、環境教育の専門団体でエコツーリズムや自然学校等による地域づくり計画の経験を豊富に持つ教員が担当する。講義を踏まえた上で学生自らの視点でプランニングを行う「実践的科目」である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境計画の概要と、周辺概念を理解する。</li> <li>・専門科目で学んだ、動物学等の知識を環境計画に応用する視点を持つ。</li> <li>・持続可能性を意識した地域の取り組みを意識できるようになる。</li> <li>・ワークショップ的な手法によるプランニングのプロセスを修得する。</li> <li>・カリキュラム・ポリシーに示された「社会において新たな領域を開拓する人間を育てる」ことを重視、「コミュニケーション力」や「プランニング技術」を重視する。</li> </ul>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) イントロダクション：地域環境計画とは何か</li> <li>2) 環境保全、動物の保護へのコミットメント</li> <li>3) 地域の環境と保全 / 環境関連の法規</li> <li>4) 生物多様性 / レッドリスト</li> <li>5) 地域環境計画に関わるトピック (ゲストによる話題提供)</li> <li>6) 「里地里山」と「植生」</li> <li>7) 里地里山を考えるために必要な生態学の概念 1 「遷移」</li> <li>8) 里地里山考えるために必要な生態学の概念 2 「攪乱」</li> <li>9) 里地里山を考えるために必要な生態学の概念 3 「エコトーン」</li> <li>10) 保全戦略、愛知ターゲット、SDG's</li> <li>11) 具体的な取り組み事例 1 自然学校とソーシャルイノベーション</li> <li>12) 具体的な取り組み事例 2 エコツーリズム、エコミュージアム</li> <li>13) 自らが行う (想定) の地域環境計画を企画する 1 地域資源をさがす</li> <li>14) 具体的な取り組み事例 3 フットパス / クラインガルテン / 固定種の保存</li> <li>15) 自らが行う (想定) の地域環境計画を企画する 2 「企画」のプロセス「まとめ」、「理解度の確認」、「総括」等</li> </ol>
授業の進め方	<p>○授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は講義中心。参加性のある授業とするため質疑応答を重視し、毎回の授業の後半に、質疑応答、ディスカッションの時間を取る。関連した分野のゲストによる話題提供を含める。</li> <li>・後半は、講義とディスカッション、グループワークにより、地域環境計画に係るプロジェクト企画の課題に取り組む。</li> <li>・アクティブ・ラーニングの要素を含めた授業進行とする。</li> <li>・「地域資源」、「地域環境計画の企画」等に関連して課題を出し、時間外に作業を行うことを求める。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<p>総括レポートとして、地域環境計画の企画の提案を求める。その過程で、地域の具体的な問題に関する調査や、アイデアの検討などを含む。総括レポートの企画の評価にはルーブリックを用いる。</p>

## 2023年度

授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源探し：合計15時間程度</li> <li>・資料さがし、資料読み：合計15時間程度</li> <li>・企画・提案書作成：合計30時間程度</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：なし。適宜授業資料をCampus Squareで共有する。</p> <p>参考図書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ピオトープ管理士 資格試験 公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター</li> <li>「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書</li> <li>「さとやま 生物多様性と生態系模様」岩波ジュニア新書</li> <li>「ソーシャルイノベーションとしての自然学校」学芸出版社</li> <li>「地域環境科学概論」理工図書</li> <li>「生物多様性入門」岩波ブックレット</li> </ul>
成績評価方法と基準	<p>成績評価方法と基準</p> <p>提出物、ミニレポート等での評価（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境計画の概要、周辺概念の理解など、講義内容の理解</li> </ul> <p>総括レポートによる評価（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能性を意識した地域の取り組みを意識できているか。</li> <li>・プランニングのプロセスの理解。</li> <li>・総括レポートの評価にはルーブリック評価を用いる。</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物、ミニレポートに関して、次回授業で取り上げコメントや追加の講義でフィードバックを行う。</li> </ul>
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	<p>事前に「環境教育概論」を履修することが望ましい。</p> <p>事前に「陸生哺乳類学」「水生動物学」「野生鳥類学」「両性・爬虫類学」などの専門科目のどれかを履修していることが望ましい。</p> <p>ピオトープ管理士の資格取得を目指す学生は履修することが望ましい。2級ピオトープ計画管理士を一部試験免除で受ける際の前提科目の一つとなっている。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業となった場合の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方</li> <li>ZOOMでの非対面授業とする。</li> <li>グループワークは個人ワークに変更する。</li> <li>成績評価方法と基準</li> <li>対面の場合と同様</li> </ul>